じごぜんひろば

No.92　2018年（平成30年）10月15日　　地御前地区自治会

御陵衣祭と流鏑馬

地御前郷土文化保存会　会長　磯部 忠利

流鏑馬（神社前）

御陵衣祭・流鏑馬は、毎年旧暦の5月5日端午の節句に行われます。

今年は、昨年より19日遅い6月18日に開催されました。午前中は雨の中遠方より、白い馬の神馬と流鏑馬の馬が搬送されてきました。今回は、小学校5・6年生の参拝で近年にない賑わいでした。

御陵衣祭の始まりは、一説には、江戸時代元禄15年（1702）とも言われ、その時代には、5月3日から5月5日まで3日間、御陵衣祭の神事が行われていたと言われています。

御陵衣祭の祭典は、午後2時から約1時間余りの古式ゆかしい神事で、多くの参拝者を集めて始まります。その中でも目立つのは、この一年の間に生まれた男の子が赤い鉢巻をし、父母、祖父母に抱かれて初節句の参拝をする家族の姿です。

神官の祝詞のあと、赤い鉢巻をした男児、地域の代表者、近隣の神社関係者と順に玉串の奉奠が行われます。

式典の次に舞楽が2曲奉奠されます。12人の楽人が整列し、太鼓・笛・鉦鼓・笙・篳篥が古式ゆかしい音色で奏でられます。

まず「陵王の舞」別名「蘭陵王」とも言われる舞楽が奉奠されます。緋色衣を着け、柄のある袴に金色の縫い取りのある、きらびやかな前飾りの衣装を身にまとい、仮面をつけて舞います。この舞は、中国の王が戦場で士気を上げるための舞であったそうです。

陵王の舞

次に「納曽利の舞」が奉奠されます。竜が楽しそうに遊ぶ姿を舞にしたものと言われ、動きがとても軽やかで、厳かな雰囲気が漂っている舞です。衣装全てを地味に装い、竜唐織の紋のある毛緑の装束で竜を模した面をつけ、後頭部は、緑色の地に金糸で縫い取りのある布で覆われます。上着は橙色の衣をつけて舞います。

◇市民センターにて

体育部　渡辺・小林

無事1日の中止もなく終了しました。市民センターお隣にお住まいの方も毎日お庭で参加されていました。連日猛暑の夏休みでした。

◇きらきら公園にて

体育部　長里・向

例年花火の残りカスとかお菓子の袋とかあるのですが歩いておられる方のお気遣いで拾っていただいて感謝です。子どもたちに無言の手本を感じてもらえればと思います。

上級生がご近所の小さな子の手を取り参加する姿に暖かさを感じました。声を掛け合う姿は子どもから大人たちが学びました。

◇ラジオ体操を振り返って（扇園第二公園）

体育部　洞井

今年は扇園町内会、保健体育事業部、サーパス町内会役員の方々のご協力を頂き、以前から実施してみたかった扇園第一公園で夏休みのラジオ体操をさせていただくことができました。

たくさんの子どもたち、保護者の方、周辺地域にお住いの方々にご参加して頂き、賑やかなラジオ体操になりました。

最終日の清掃も、一生懸命草取りをしてくださいました。

来年も実施していきたいと思いますので、みなさまよろしくお願い致します。

＜参加者からの声＜

○インターナショナルスクールにずっと通っていて、ラジオ体操をしたことがないので来てみましたという学生の方は、はんこを押すのをお手伝いしてくれました。

○扇園でラジオ体操があると聞いて、喜んできてくださった女性の方がおられました。

○ウォーキング中に足を止めて防波堤からラジオ体操に参加される方がおられました。

○小さなお子さんを連れて参加してくれるお母さんがおられました。

○子ども会の保護者の方には、ラジオ体操を近くの公園で実施してくださってありがとうございますとお言葉をいただきました。

○ラジオ体操のカードをなくしたよ。（後日見つかったようです）持ってくるのをわすれたよ。はんこを昨日もらい忘れたよ。などの小さな叫びに、大丈夫よ、また押してあげるよと言うと安心していました。

○最終日の清掃も10分と短い時間でしたが、みなさん一生懸命に草むしりをしてくれました。10分間でゴミ袋3個分になりました。ゴミは扇園の会長さんに相談をしたら、お宅に一時保管してくださいました。

○最終日に配った（好きなのをとってもらった）飲み物はメロンソーダが人気でした。

◇地御前小学校教頭先生から

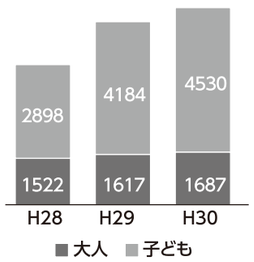
地域の方と、子どもらがこんな所でも繋がってるんだ！素晴らしい！

◇自治会副会長　向

教頭先生にも朝早く各場所へ出向いていただき感謝です！宮内六本松からも毎年親子で参加！感心しています。

地御前の人とのかかわり最高です！つくづく感じたラジオ体操でした。

参加人数（25日間延べ人数）



防災マメ知識

廿日市市において、災害警戒本部や災害対策本部が設置されると避難所が開設されます。状況によって避難所で飲食がすぐに得られない場合があります。自分に必要なもので、持ち出せる重さの「非常時の持ち出し品」を準備しましょう。非常時の持ち出し品については、「地御前地区土砂災害ハザードマップ」（平成30年3月作成）や、「地震防災マップ（廿日市地域版）」（平成27年3月）にも掲載されていますので、参考にしてください。

10月の市民センターまつりでは、自主防災会が非常食の試食販売を行います。（5年間保存可能）

お詫びと訂正

前号掲載の緑ヶ丘町内会長　中谷和貴さんの文章の後半部分を欠落させてしまいました。お詫びをすると共に、全文を掲載させて頂きます。

地御前で暮らして四十数年

今までは、地域とのかかわりが少なかったのですが、これを機会に皆様との出会いを大切に、地域活動に取り組み、少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。高齢化の進む中、会長になると、仕事も多く忙しい、大変だとよく耳にします。大変さが少しでも軽くなるよう、皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

編集後記

▼誰もが経験のない酷暑で次々と襲った災害にも幸い当地には特に被害もなく幸運であった。被災された地方の方々には一刻も早い復旧をお祈りします。

▼本号より「じごぜんひろば」の編集を桐林潤が担当します。今後ともご指導をよろしくお願いします。

［発行］地御前市民センター内
地御前地区自治会　広報事業部

御陵衣祭の式典の合間に「神馬の巡行の儀」が行われます。神馬は神の使者として「ジンメイさん」と言われ、昔は、厳島神社で飼われていました。昭和30年頃までは、神官と共に船で「ジンメイ鼻」に渡航して地御前神社に来られていました。

そもそも、巡行祭は平安時代初期（９００年頃）農民の安泰と五穀豊穣を祈願する祭典であり、邪気をお祓いして清めるために「神馬」が神様の代理として地御前の家々や田畑を巡るものです。「神馬」には飾り衣装を着け、背鞍にシモロギ（榊に紙垂）をつけ、神職のお祓いを受けて、ヒシャクと獅子頭を先頭に、お供とともに地御前街道を巡行します。

神馬巡行

流鏑馬神事は、全国各地で開催されているものですが、地御前の流鏑馬は、安芸の国藩主安芸の守が奉納場を仕立てて参拝したのが始まりで、安土桃山時代慶長3年（１５９８）とも言われ、４００年以上の歴史があるとされています。古い流鏑馬装束の衣装箱には慶長元年と記してあります。嘉禎2年（１２３６）3月、厳島神社に収蔵されていた「装束目録」の中に「やぶさめ装束」とあることから、更に古くからあるとも推察されています。

昔は、地御前神社から地御前街道にかけては砂浜で、そこに馬3頭を走らせました。観衆は竹竿などで馬を海辺に追いやり、海に近い所を走るほどその年は豊作になると言われていました。現在の大歳神社の石鳥居の石段は、流鏑馬（馬飛ばし）の観覧席となっていました。

その後の地御前街道を走る頃には、弓矢は射ず、農耕馬を地御前の青年騎手が、1回目は両手で手綱を持ち、2回目は片手を放し、3回目は両手を放して走ったことから「馬飛ばし」と言われていました。馬が観衆に竹竿で叩かれて傷ついたり、曲がりきれずに家に突き当たって負傷した為に農家が馬を出さなくなったと言われています。

昭和41年から57年まで流鏑馬が中断されていましたが、57年に地域の強い要望で、再度行われるようになって現在に至っています。慶長年間からの流鏑馬衣装（狩人装束）が繕えない状態になったため、平成17～18年に新調されました。

流鏑馬の儀式

・お祓いの儀
騎手と馬が出走前に神官よりお祓いを受ける。

・五情報の儀
騎手が馬に乗り神官・馬主に引かれ神社拝殿の前を左回りに3回廻る。

・天長地久の儀
騎手が馬上より天・地・東・西・南・北に鏑矢を放つ。
（前ページ写真）

・的射の儀
騎手が乗馬して的の前を馬主に引かれ左回りに一周する。騎手が馬上より3ケ所の的に向けて矢を射る。

・今も続く習慣と洒落
端午の節句に菖蒲（雄株）と蓬を束ねて屋根（軒）に揚げ、夕方まで干した菖蒲を風呂に入れて薬湯にした。「薬味の節句」とも言われる。また、米粉を団子にして笹の葉巻にした「ちまき」やカタルの葉に包んだ「かたる餅」を食べる習慣があった。

盆踊り

扇園　桐林　潤

8月15日、地御前地区の盆踊り大会があった。炭火焼の焼き鳥、フランクフルト、かき氷、ビールやジュース、ヨーヨー釣り。全部地元の長寿会や自治会の方々が格安で提供して下さっていた。私はＰＴＡ活動や自治会活動のお蔭で顔見知りが増えて、楽しさも増している。久々に会った元ＰＴＡ役員や、通学合宿に参加していた子どもたち。顔見知りもバラエティに富んできた。焼き鳥と飲み物を片手に、立ち話に花が咲いた。一緒に踊っている人にも、お囃子の唄、太鼓、篠笛、三味線をして下さる方々にも、いろんな行事で一緒に働いた顔ぶれがいる。盆踊り新参者でも、老若男女が一緒になって踊るということがなんとも言えず楽しかった。

盆踊り風景

盆踊りお囃子

24時間テレビ「愛は地球を救う」募金活動について

自治会副会長　向　佳

振り付けはゆったりしたもので単純。誰でもすぐに踊れる。生演奏による盆踊りというのも豪勢だ。唄い手や太鼓は途中で入れ替わりながら、独特な和の節回しがエンドレスに繰り返される。きっと昔はこの踊りを夜通し続けていたんだろうなぁ。それでゆったりした振り付けになっているのかもなぁ。

踊っているうちになんだか昔にタイムスリップしたような気分がした。今感じている感情は、昔の人も感じたことなのだと思った。時代を超えて、会ったこともない人たちとの共感で心がゆったりと共振しているような感覚。損得などない、一緒に生きているというつながり。一緒にここで生活を営んでいる仲間、という実感なのだと思う。盆踊りはタイムマシンでもあり、過去から現在の生活共同体の証の一つだと思った。これからも大切にしたいものだ。

今年で3回目の活動参加させていただきました。8月26日（日曜日）13時から1時間、ザ・ビッグにて、たった1時間の間なのに、多くの方たちとのふれあいを通して人とのぬくもりを感じるこのひと時に、毎年感動しています。初めての参加の時は気恥ずかしくて大きな声も出ずもどかしい自分がいました。これではいけない、参加してる子どもたちにも「ありがとうございます」と素直に言える子どもたちになって欲しい。という気持ちもあり、自分でお手本を！見よう見まねでだんだんと子どもたちも大きな声が出始め、振り向く人も増え、募金へと…。子どもの力は大です。

募金活動

一人一人ストーリーがあります。大きなお札を入れてくださる方。一つ一つの募金箱に入れてくださる方。5円玉だけ残して小銭を全部入れてくださる方。「頑張ってね」と声をかけてくださる方。次から次へと大きな災害に見舞われ、いつ誰がどうなるかもわからない状況に・・・。今を大切に！今できることを！と思いますが、現実的には生活に追われて1日が終わっています。だからこそ、この1時間は大切な心温まる時間になっています。来年も多くの方に参加してもらえたらと思います。

ラジオ体操

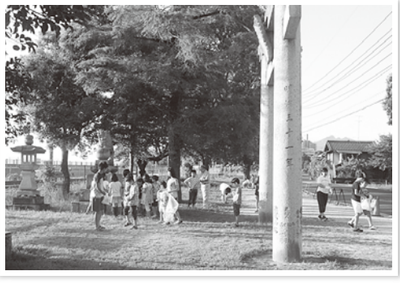
酷暑の夏休みにも関わらず元気な子どもたちがラジオ体操に励んだ。各会場の様子を保健体育部員の皆さんに、また今年から新しく会場となった扇園会場からも語って頂いた。

◇きらきら公園にて

体育部　小畠

今年は7／23～8／31の25日間、雨の心配をよそに全日開催できました。キラキラ公園の参加者は延べ大人３６１人、子ども１３６１人で合計１７５５人。毎年少しずつ増え、参加者には感謝申し上げます。欲を言えば大人の参加が多くなればなと思います。それには子ども会との協力体制を構築し親の参加を多くすることと自治会全体への働きかけを強め高齢者の参加を促す対策を考えねばと思っています。何はともあれ事故無く完了することができ、皆様には御礼申し上げます。

◇地御前神社にて

体育部　中田・向

神社では中学1年生が参加してくれ、前で手本となってくれました。また、最初から最後の清掃まで手伝ってくれて成長した姿に感動しました。低学年の子も自ら前に出て体操する姿に素直さを感じました。神社にお参りし、1日の始まりに感謝しました。今年は小学生の保護者だけでなく、地域の方の参加も多く感じました。地域の方とは「また、来年！約束はできないけど…」。今年の多くの災害を考え、いつどこで何が？誰が？ということを考えさせられた夏でした。